



都心の魅力にあふれ、文化と伝統が息づくまち千代田

千代田区

面積	11.66km ²
世帯数	38,002
人口	67,276人
(うち外国人)	2,853人
予算	692億円
職員数	1,197人

歴史・見所・名所

千代田区は、江戸城を中心に発展した地域であり、江戸時代から政治・経済・文化の中心として歴史を刻んできました。

明治11(1878)年に麹町区と神田区が設置され、昭和22(1947)年に両区が合併し、千代田区が誕生しました。なお、「千代田区」という名は江戸城の別名「千代田城」にちなんだものです。

千代田区は江戸城の面影を今なお残す皇居のほか、立法(国会議事堂)、行政(首相官邸や霞が関官庁街)、司法(最高裁判所)の三権の主要機関、世界的なビジネス街として発展する丸の内・大手町、落ち着いた景観とたたずまいを見せる番町・麹町、電気街やポップカルチャーの発信地である秋葉原、古書店街の神保町、スポーツ店街の小川町、繊維街の岩本町など、他に例のない多様で特徴ある街並みが形成されています。

また、千代田区には国の指定を受けている文化財が多数あります。昔の姿を残している江戸城跡・江戸城外堀跡・常盤橋門跡や、近代都市の発展を伝える東京駅丸の内駅舎・明治生命保険相互会社本社本館等があり、江戸・東京の歴史・文化を伝える重要な文化資源となっています。

概要

【地理】

千代田区は、23区のはほぼ中央に位置し、中央区、港区、新宿区、文京区、台東区に接しています。また、区には、神田川及び神田川から分派した日本橋川が流れています。区の面積は11.66km²で、23区で19番目の大きさです。

【人口】

千代田区の人口は、一時4万人を割り込むまで減少したものの、平成12年を境に都心回帰の流れ等の中で増加に転じ、現在では6万7千人に達しています。一方で、千代田区は通勤・通学者が非常に多く、令和2(2020)年の国勢調査では昼間人口は90万人を超えています。昼間人口の比率は十数倍に及び、全国でも群を抜いています。

【特徴的な施策】

千代田区では、全国で初めて罰則付き路上喫煙禁止を盛り込んだ「生活環境条例」の制定や23区内で唯一の区立中高一貫校である「九段中等教育学校」の創設、全国初の幼保一元化園である「こども園」の創設等、独創的で独自性のある施策を実施しています。

主要課題

日本の人口はすでに減少傾向にある中で、千代田区の人口は、今後も増加が見込まれており、行政需要は拡大することが想定されます。また、新型コロナウイルス感染症により厳しい影響を受けた区民生活



皇居
区の中央には皇居が位置している。



千鳥ヶ淵
桜の名所である千鳥ヶ淵。緑道には約260本の桜が植えられている。



日比谷公園
明治36年に開園した日本初の近代的な洋風公園。令和5年に開園120周年を迎える。

や地域経済については、単に回復をめざすのではなく、区民生活のさらなる発展につなげていくことが重要です。加えて、デジタル技術を活用した行政サービスのオンライン化など、新たな時代に対応した取組みが求められています。

(1) 自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち

障害があっても、高齢になっても誰もが生涯を通じていきいきと心豊かに生活することができるよう、障害者、高齢者、子どもなど包括的に支援できる取組みを行います。

また、すべての子どもたちが誰ひとり取り残されることなく、将来にわたって幸せな生活を送ることができるよう、家庭と地域、学校・園が一体となって共に子どもたちを育むまちの実現や子育て支援、教育に取り組んでいます。

(2) 集い、つながり、活気にぎわいのあるまち

千代田区では、マンション居住者が増加しており、約9割がマンション等の共同住宅に居住しています。このような状況において、地域のつながりが希薄となっています。さらに新型コロナウイルスの感染拡大により、対面でのコミュニケーションの機会が減ったことで、地域コミュニティの希薄化が懸念されています。そのため、デジタルツール等を活用し、地域コミュニティを活性化する取組みを進めています。

また、商工・観光等においては、中小企業への支援を行うとともに、新たな産業の可能性にも着目し、地域のにぎわい創出や魅力向上のための取組みを行います。

(3) やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち

令和3(2021)年5月に改定した「千代田区都市計画マスタープラン」で描いた将来像「つながる都心」の実現に向け、区に住み、働き、学び、集う、多彩な人々をつなげ、人やまちを豊かにする取組みを行います。また、令和3(2021)年11月に「千代田区気候非常事態宣言」で表明した、2050年までに区内の二酸化炭素排出量実質ゼロを実現するための取組みを進めていきます。

●地方との連携による共生社会の実現

千代田区は、地方と、エネルギーや食料など経済活動・生活全般にわたって互いに支え合っていることから、お互いの強みを活かし、相互に補完し合い、さらに連携を強化していく必要があります。地方との連携の推進にあたっては、行政間の連携に加え、民間主導の取組みへの参加または側面的な支援・関与等、産学官連携による地方との連携事業にも積極的に取り組んでいきます。

将来展望

区では、平成13(2001)年に策定した「千代田区第3次基本構想～千代田新世紀構想～」の実現に向けて、施策を展開してきました。

しかし、現基本構想の策定から約20年が経過し、千代田区の人口は増加傾向に転じた一方で、少子・高齢化の影響により、我が国の人口は減少傾向が続いているなど、千代田区を取り巻く環境は大きく変わっています。さらに新型コロナウイルス感染症、首都直下地震や地球温暖化など、区民の命や暮らしに直結するような様々な課題に直面しています。

そのため、千代田区では、時代の変化に的確かつ柔軟に対応し、持続可能な地域社会を築いていくため、令和5(2023)年に新たな基本構想を策定する予定です。



神保町

古書店が立ち並び、最近ではカレーの街としてもにぎわっている。



秋葉原

電気街やポップカルチャーの発信地として知られる。